

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度

ガバナー月信

No.10
2009
4

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008-2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



国際ロータリー第2510地区

2008～2009年度 ガバナー 矢橋 温郎 HARUO YAHASHI

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F

TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 e-mail:rid2510@nifty.com

ホームページ: <http://www.ri2510.gr.jp>



RI国際協議会(カルフォルニア、サンディエゴ)にて

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

目次

CONTENTS

- 1 ————— ガバナーメッセージ
- 2 ————— 第2510地区 第4・第5グループ合同IM開催記
- 4 ————— WCS検証ツアー報告
- 7 ————— ローターリー雑誌月間によせて
- 8 ————— 会長エレクト研修セミナー報告
- 10 ————— ローターリー財団セミナー・米山セミナー
- 11 ————— ガバナー補佐研修セミナー
地区チーム研修セミナー
- 12 ————— 私の“Rotary Notes”
一粒の麦
- 14 ————— ガバナー補佐レポート
第9グループ
- 15 ————— 第21回 全国ローターアクト研修会の報告
- 16 ————— 札幌東ロータークラブ 創立50周年記念継続事業報告
- 17 ————— ローターリー財団寄付／米山記念奨学会寄付／文庫通信
- 18 ————— 新入会員のご紹介／計報／2009-10年度 地区協議会開催のご案内
- 19 ————— 出席率・会員数
- 20 ————— 地区カレンダー（4月・5月）
- 21 ————— 例会曜日・例会時間・例会場の変更等について
地区組織図の変更について



ガバナーメッセージ

桜の森の満開の下

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 矢橋 温郎
(札幌西RC)

地球温暖化は、暖冬に直結するものと短絡的に考えておりました。冬の北海道は温暖化だろうと、やはり雪が降り積もります。札幌市内のIMでは、ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊先生をお招きしましたが、猛吹雪で欠航が相次ぎ到着が危ぶまれました。

その前日、私は第2750地区の大会が開かれたグアムから帰国しました。同地区は東京南部のほか北マリアナ諸島・グアム・ミクロネシア・パラオも含まれます。大会は日米をまたぎ、グアムでの開催は10年ぶりだそうです。同期ガバナーからのお誘いを受けて、国内あちこちの地区大会を巡りましたが、国外での地区大会も興味深いものです。10年に1度のタイミングにガバナーとして参加できたのは幸運でした。

早朝の便で札幌へ帰ってきたその日、後続はすべて欠航。これまた幸運です。南の島で思い切り日焼けした顔で吹雪の札幌を歩くのは、季節感を超越した境地です。そんなわけでひと足先に夏を満喫してきましたが、今月から4月。国内ではようやく春の括りに入りますが、道内はまだ雪も残っているし、暖かくなってきたとはいえ暖房を切るにはまだ不安。4月といえば一般的には新年度のスタートですが、ロータリー年度では残り3ヶ月。いよいよ終盤です。すでに次年度のための準備が始まり、先月は砂川で地区チーム研修セミナー、会長エレクト研修セミナー、地区ロータリー財団セミナー、地区米山セミナーを2日間で怒涛のようにこなしました。準備する側も参加する側も、関係者のみなさんはお疲れになったことでしょう。今月は滝川で地区協議会が、又6月には会員増強セミナーが控えています。

会員増強といえば、先日李東建RI会長から自宅に電話がかかってきました。会員増強がんばってください、との叱咤激励です。通訳を間に挟むと意外に時間がかかります。都合1時間、受話器を握っておりました。他地区ではこんなに会員が増えているのに第2510地区はどうしたの?と問われると、針のむしろ。

確かに目標純増数には遠く及ばない状況です。が、このご時世ロータリーに入って奉仕活動を、という篤志家はそうそうたくさんいるとは思えません。本業に専念したいと退会を申し出る方を引き止めるのも心苦しいほど。経済成長の右肩上がりが終わったのだから、ロータリーも単に増やせ増やせから方針転換しなくてはならないのではないかなあ。なんてRI会長に進言はしませんでした。もちろん会員数のパワーは侮れません。「ロータリーは財団の集金マシン」と昨今揶揄されているような資金力だけではなく、奉仕活動で汗をかくにも人手は欲しいもの。そのためには1年間で退会者がひとり出ても、ふたり新入会員を得られるよう努めるくらいでちょうどよいと考えます。

会員増強の伸び悩みは、ロータリーの魅力云々のほかに世界的な不況が要因です。我が国だけではなく、RI会長を輩出している韓国でも、環境は同じはず。それがわかっている、それでも会員増強を唱えなければならぬRI会長職というのも因果なもの。裏返せば会員増強を意識しなくなったら、会員減少に歯止めがかからなくなるのかもしれない。その辺の気持ちを汲みながら、通訳さんのたどたどしい日本語を介してRI会長のお言葉を拝聴しました。

韓国の話題になったところで、第3700地区のお話。当地区と姉妹関係を結んで5年になります。正式な締結以前から交流はありました。さかのぼれば私が地区ローターアクト委員長を仰せ付かった当時、アクトの交換事業を行ったことがあります。竹山元RI理事に同行いただき、友好の記念として大邱に桜を植えました。25年前のその桜は、毎年きれいに咲いているそうです。今月第3700地区の大会が開催されます。その桜の開花に間に合えば、四半世紀ぶりの花見に興じたいものです。

第2510地区 第4・第5グループ合同IM開催記

地区ガバナー補佐（第4グループ担当）

大島 利一

（札幌西北RC）

2009年2月21日、第2510地区第4・第5グループ合同のIMが『夢をかたちに』のテーマでルネッサンスサッポロホテルで開催された。詳しい内容については後日、作成される報告書に委ねるとしてIM開催までと、開催当日の慌ただしい流れをこれから開催されるIMの参考になればと思い報告したい。

I まず開催日の設定だが、昨年も2月23日に開催されたがこの時も大荒れの天候であった。2月開催IMのほとんどが天候に恵まれていないと言うデータを基に3月か4月の開催にしたらどうかとの意見もだされたが、地区のスケジュールから、荒天になることを想定しながらも2月の開催と決定した。そして想定していた悪い天候となってしまう、プログラム・総務・司会者達の体重が半減する程の分単位の慌ただしさとなった。「どうにかなるサ、なるようにしかならんべ」と腹を括りノー天気だったのは私だけのようであった。

小柴昌俊先生の東京事務局との連絡の中で渡邊葉子総務委員長は、余りの荒れた天候にフライトの危険と不安を感じ来道の中止を申し込んだ。しかし82歳の先生の頑固な意思を覆すことができず、しかも航空会社からは途中で東京に引き返すか、函館空港への着陸を条件で飛んだとの情報が入り、私達は遅れた時、引き返した時、函館に到着した時それぞれにどう対応するか、頭の中で大回転させながら各委員がホテル内を飛び回っていた。この日は朝から晩まで猛吹雪で一日中荒れ狂っていた。そんな悪天候の中、先生の乗った飛行機は奇跡的に2時間程の遅れで無事に千歳に到着した。この21日は千歳空港に着陸できた飛行機は先生が搭乗したこの便だけであとは全て欠航したのだから、これはもう奇跡と言うほか言葉は見当たらない。敢えて言えばホスト・コホストの精進の良さだと自慢させてもらいたいと思う。

II 基調講演をどなたにお願いするか、基調講演がIMの目玉でもあり、『夢をかたちに』のテーマに添った話をしただけの有名人をと随分と人選に苦労した。『心に夢のタマゴを持とう』の題で出版された2002年ノーベル物理学賞受賞の小柴昌俊先生にお願いすることで交渉を進めた。小柴昌俊先生は平成基礎科学財団理事長として現在活躍されており、財団事務局と西北RC女性のエース渡邊葉子総務委員長が交渉に当たった。出演が決定するまで、又到着までの交渉過程の苦労はそれは大変なもので、経過エピソードは酒を飲む席上でなければとても勿体無い話でいずれば発表する機会もあると思う。小柴先生の「自分でやろうと思ったことは若い人も年配の人もやり遂げる努力が大切で必ず実行できる」と講演され、北海道新聞にも記事としてのりました。



2002年 ノーベル物理学賞
基調講演 （財）平成基礎科学財団 小柴昌俊先生

III 小柴昌俊先生の到着の遅れで、プログラムを変更して札幌北陽中学校の合唱発表をしてもらった。中学校の合唱をプログラムに組み入れたのは、札幌あけぼのRC（第4G）からの提唱で、札幌市合唱教育研究会主

催で ①今年で24回開催と歴史があること。 ②札幌近郊中学校から30数校、参加生徒1,000名以上、出席父兄も1,000数百名と年々規模が大きくなっている。 ③この参加校から毎年全国大会に出場し数多くの金賞・銀賞を獲得しレベルが高いこと。 ④札幌市や教育委員会で後援しているが、経費は全て生徒と父兄が負担している。 ⑤これまで市民会館で発表会を開催していたが今年は市民ホールが建替えられたため使用料が大幅に高くなり子供達の負担が大きくなった。この子供達の合唱の夢を第4・第5Gとして、歌うかたちになる手伝いをと会長・幹事会で各クラブで補助の協力をしようと了承された。RCが共催の形をとった第24回中学校合唱演奏会も盛会に行われた。これに参加した札幌北陽中学校の55名の生徒に合唱発表をしてもらった。子供達の汚れない純粋な歌声と光輝く目を見て涙を流した会員も多くいたと聞いています。これから私たちがどのように演奏会に拘わり支援できるかを考えていただければ有り難いし、支援の継続の輪を広げるための検討が地区へと広がれば今回IMで合唱発表してもらった意義があり、中学生達の『夢』が『かたちに』繋がるのではないのでしょうか。



札幌北陽中学校55名の生徒の合唱『手紙』を披露

Ⅳ シンポジウムのテーマ『こどものいのちと未来を守る～細菌性髄膜炎ワクチン』は札幌東RC（第5G）の50周年記念事業で取り上げられましたが、この細菌性髄膜炎は1歳未満での発症が高く30%以上の死亡と重い後遺症が残るがワクチンで98%防ぐことができる。このワクチンは世界100ヶ国以上で国の事業として接種していますが、日本では接種費用約30,000円が全額個人負担で将来の夢を託す幼児を大切に大きく育てるため、若い両親の経済的負担を軽減する動きの輪を広げたいとの思いでIMのテーマの一つとして取り上げました。このテーマはこれからも継続すべきテーマだと考えております。山中樹札幌東RC会員・高下泰三札幌西RC会員・穴倉迪彌札幌西北RC会員のパネリストのお話をとおして阪崎健治朗（地区社会奉仕委員長）コーディネーターは、医療分野だからその関係者だけに依存するのではなく、ロータリーとしても何ができるか、どんな運動ができるのか、地区とクラブが一体となって研究しアクションプランを模索することを期待すると締め括ってくれました。



第2510地区矢橋温郎ガバナーのユーモア一杯のご挨拶



シンポジウムで『こどものいのちを守る』ため熱弁のパネリスト

第4・第5グループ合同IMが460名の方たちに登録いただき、基調講演では会員の他に中学生・先生・家族・社員と多くの方たちが悪天候の中ご参加していただきました。一部プログラム順序の変更がありましたが、自画自賛となりますが大成功を納めることができました。これは多くのロータリアンの協力とホストクラブ・コホストクラブの一致団結と協力によるものと心から感謝申し上げ2008～2009年度IMの報告とします。ありがとうございました。

WCS検証ツアー報告

地区WCS委員長 出村知佳子
(札幌北RC)

2009年2月10日～2月15日の6日間、2008—2009年度WCS検証ツアーを実施致しました。2006年度から事業を実施しました現地での検証を終えていないインドネシア、ジョグジャカルタ（2006年5月にジャワ島中部地震がこの地区で発生して20万世帯が崩壊6000人以上の方が亡くなりました）にての検証を参加メンバー8名で実施致しました。

第一日目に過去事業、移動図書館事業（札幌東RC—国際奉仕 2007—2008年度）を訪問、私設図書館をスマント氏という男性が全てボランティアで運営をし、再建された自宅も全て開放し、公共図書館の役割をしています。オート三輪で移動する移動図書館も運営し、本を読むことのできない子供たちや人々の為、学校、集会所、孤児院へも出かけ震災の際にもスマント氏の移動図書館で多くの方が励まされました。今後も子供達の教育の為、又成人女性の識字率向上の力になってくれると思います。



＜移動図書館で紙芝居（函館五稜郭RCより）
を手にするスマント氏＞

次に共同集会所（北斗RC、札幌北RC—国際奉仕）を訪問、子供達がバティック（ろうけつ染め）の練習をしていました。ここでは乳幼児健診、お年寄りの健康診断、出産の場、バティック教室等、様々な用途で使用され集落になくはない存在ですが、2006年の地震で崩壊し集落の方たちが途方にくれていたところ、御支援により再建されました。



＜共同集会所でバティック教室の子供達と＞

今後も集落の方の為になくはない存在として様々な役割をしてくれることと思います。その夜第3400地区の5クラブによる合同例会を開催して頂き、ガバナーはじめ第3400地区ジョグジャカルタのロータリアンの皆様と大変楽しいひと時を過ごしました。当地区クラブの支援した過去の事業、集会所事業、幼稚園支援事業、災害環境教育事業（栗山RC）についても、感謝の言葉がありました。

第二日目の検証は、2007—2008年度復興支援幼稚園遊具設置事業（新札幌RC）の幼稚園を訪問、子供達の大歓迎を受け、踊りや歌の披露もあり楽しい交流ができました。

地震で崩壊した家屋と遊具がオランダのロータリー、日本のロータリー（新札幌RC）により再建され、子供達の笑顔が戻りましたと校長先生からの御言葉でした。

その後4つの孤児院を訪問、インドネシア孤児院水事業（砂川RC、岩見沢RC、函館五稜郭RC、滝川RC、※マッチング・グラント手続き中）、インドネシア孤児院寝具寄贈事業（三石RC、札幌北RC、伊達RC、室蘭RC、小樽RC、白老RC、新札幌RC）を視察しました。

水事業は第1号機が設置され、残り10機（合計11）の浄水装置が各孤児院に設置される予定です。

現在は井戸の不衛生な水を使用（燃料費の高騰により、煮沸消毒が困難に）人間らしく生きるための最低限度の環境が整っていない状況をジョグジャカルタのロータリーの皆さんと共に、孤児院の子供たちの為に一刻も早く支援を完了したいと思っております。

寝具事業につきましては、予算50万円で当初150人の子供達へのマットレスの寄贈を予定していましたが、円高の好影響で300人の子供達へ寄贈できることとなりました。

今回は4つの孤児院150人の子供達へマットレスを届け、残り150個はジョグジャカルタRCの皆さんが孤児院の子供達に届けてくれています。床の上にゴザを引いて寝ていた子供達は、マットで寝る生活は夢のようだと喜んでおりました。ジョグジャカルタには20以上の孤児院、1000人以上の孤児達がいて、震災孤児も多くいます。孤児院の子供達の生活環境は想像以上に厳しく、子供達が夢を持って生きていくのに程遠い厳しい環境でした。そんな中で明るく強く生きている子供達の笑顔に私達が逆に勇気をもらい、継続支援の必要を強く感じた検証ツアーだったと感じます。

このインドネシア検証を終え、マッチング・グラントの行われているタイのチェンマイ県へ全員がその足で移動し、チェックダムの工事と、集落の水源を確保するための貯水槽の引き渡し式に参加しチェンマイ県知事、総領事、横田順子女史も参加され、大変貴重な時間を過ごしました。これについては改めて紹介させて頂ければ幸いです。

各事業参加クラブには、各クラブ独自のアイディアで子供達へのお土産を頂戴し、現地調達の手拭、タオルなど生活用品、手作りノート、文具、湯の川中学美術部手作りの紙芝居を届けてきました。乗継のデンパサルではちょっとしたハプニングもありお土産の荷物について税関職員の質問を受け奥深い小部屋に連行？されましたが、なんとか理解を得られ



＜再建された幼稚園の子供達と＞



＜お遊戯と演奏で迎えてくれました＞



＜孤児院に設置済浄水装置の前で＞



＜砂川RC会長お手製ノートを手に孤児院にて＞

無事通関が完了しました。皆様の真心を本当にありがとうございます。ノート等を手にした子供たちの喜びの笑顔が今でも頭に焼きついております。

参加者8名の皆様への感謝と共に、皆様のコメントを紹介させていただきます。

〈砂川ロータリークラブ 松原重俊会員〉不衛生な井戸水を飲料している子供達へ安全な水の支援、床に直に寝ていた子供達への寝具の寄贈、ノート文具の提供できた事は本当に素晴らしい事だと思います。子供達の笑顔が印象に残っており今後も我々ができることはしてあげたいと思っています。ノート作成に御協力頂いた、砂川IRCメンバー、お手伝いいただいた市民の皆様へ感謝申し上げます。

〈三石ロータリークラブ 中村一重会員〉相手RCの皆様、企画をしたWCS委員会に感謝です。想像以上の厳しい環境の中ですが、子供達は明るく頑張っているのが印象的です。また、チェンマイでの工事はとても貴重な経験をしました。

〈三石ロータリークラブ 出口弘史会員〉相手国のロータリーは訪問の際に本当に親身になり対応をしてくれます。大変な中でも強く明るい子供達に胸を打たれ、ロータリーのWCS支援は素晴らしいと思います。

〈三石ロータリークラブ 山田博継会員〉インドネシアの訪問の際の合同例会では、5クラブからもの皆さんが参加くださり、ツアー参加メンバーの結束も固くなり、ロータリーの輪が一つである事を感じました。事業についても、我々の支援に感謝をし協力してくれました。子供達を見て、我々は感謝して生きなければと強く感じました。

〈伊達ロータリークラブ 和歌宏悦会員〉とにかく驚きました。こんなに厳しい環境の中で強く頑張っている人がいるんだなあとショックを受けました。本当に参加できて良かったです。また、千歳セントラルRCの田口廣委員、札幌東RCの小林隆聖委員が地区メンバーとして、検証、工事に尽力くださいました。8名の皆様、御支援頂きました各クラブの皆様へ心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



〈寄贈したマットレス〉



〈子供達へ文具等、2510の名前を入れて〉



〈千歳空港出発時〉



〈チェックダム工事に参加〉

ロータリー雑誌月間によせて

ロータリーの友地区委員 橋本 信夫
(札幌西RC)

4月は“The Rotarian”、「ロータリーの友」、「ガバナー月信」やクラブ会報など、ロータリー関連雑誌の活用を考える月間です。

特に「ロータリーの友」（「友」）は日本のロータリアンのための機関・情報誌として作られていますが、単に国内のロータリー情報ばかりでなく、優れたエッセイ、時事解説や国際問題の紹介など、きわめて広範な情報が織り込まれております。さらにロータリーの多岐にわたる活動の現況を知ると同時に、ロータリー運動の目的や本質にも触れた格好な読み物として、その良質な内容はロータリアン以外の人々にも読んで頂きたいくなるほどです。

「友」の創刊は1953年、今年で54年目の、経験豊富で活力溢れる壮年期の月刊誌です。通巻670号を越え、最近では毎号10万5千部を発行しています。2002年から今のA4判となり、同時にコンピューター編集に切り替わりました。アナログ社会からデジタル化への過渡期社会のなかで、各クラブ・会員から原稿や資料を手広く集め、さらにロータリーの歴史、RI情報や国際的なロータリー活動の紹介なども加えながらITを駆使した様々な編集努力が重ねられています。

2007年からはホームページの「ロータリージャパン」が広報誌として開設され、ロータリアン以外にもインターネットによる迅速な公開の道が拓かれました。また年1回、11月に発行される「友」の英語版“The Rotary-No-Tomo”には日本のロータリー事情がコンパクトにまとめられているので、国外からの来訪者や外国旅行先での日本紹介に大変重宝がられています。

最近これまでの主要ロータリー国で会員の減少が目立つ一方で、国際的な活動基盤の変動も急速に進みつつあります。現在、国別の会員数では米国372,000人、インド98,600人、日本95,500人とインドが経済発展を反映して日本を抜き、2位に躍進しました。

こうした状況下において、日本のロータリーの魅力や綱領の素晴らしさを地域社会にアピールし、活動の再活性化を促しながら会員増強を図るには「友」に優るメディアはありません。

この「友」は会員の機関誌なので、まず会員の投稿をもとに、それぞれの意見の開陳や公開討論、また様々な経験、職業知識などを載せて会員相互の交流とロータリーの啓蒙を図ることを大きな目的としてきました。現在「友」の運営はガバナー会の管理のもとに様々なレベルの会員で構成された「ロータリーの友委員会」に任されています。さらにこれは各クラブ、各地区の会報や月信などの編集経験や地域特性なども反映されるよう半世紀以上もの長い年月をかけて改善されてきました。またロータリーの伝統や綱領の基本に沿って作られているので、これを読むことによってロータリーの心を汲み取ることができますし、また各クラブが新機軸を打ち出す場合も規模に見合った様々なプログラムを参照することができます。

しかし「友」にはRI本部からの援助がないので、独自の財政基盤を持たなければ継続的な発刊が難しくなります。このため「友」への興味を高め、購読意欲をそそらせるよう様々な工夫と努力が重ねられて、今では一般商業誌に劣らないほどの内容を誇るようになりました。

したがってこの購読の拡大によって、「友」の運営基盤が財政的に支えられるばかりでなく、地域社会にロータリーの特色や素晴らしさを伝え、会員増強の機会をも拡張できることから、この購読促進キャンペーンにもロータリー発展の一助としての期待が懸けられているのです。会員の育てたこの「友」がいつも座右に置かれ、クラブ運営や活動の糧として広く活用して頂ければ幸いです。

会長エレクト研修セミナー報告

次期地区代表幹事 神部 洋史
(滝川IRC)

去る2月28日(土)と3月1日(日)の2日間に亘って、砂川市民の文化的な交流の場としてJR砂川駅に隣接して新設された地域交流センター「ゆう」において、表記の如く会長エレクト研修セミナー(以後PETS)を開催し、無事終了したので第1日目からプログラムの時系列に則り報告する。

【第1日目】矢橋温郎ガバナーによる開会の点鐘、国歌とロータリーソング「奉仕の理想」を斉唱した後、渡邊恭久ガバナー・エレクトから参加者の紹介があり、紹介後「基調講演-RIテーマ発表・次年度目標」があった。最初にサンディエゴでの国際協議会の模様や、次年度RI会長 ジョン・ケニー氏(RI会長エレクト)の人となりや略歴を話され、次年度RIテーマについて詳細に説明を受けた。

“THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS”は、「ロータリーの未来は あなたの手の中に」と訳され、ケニー次期RI会長のテーマに則った7つの優先項目の説明がなされた。

- ①「ポリオを撲滅する」
- ②「ロータリーに対する内外の認識と公共イメージを高める」
 - ・地域社会に広め、国際的な地域を築く
- ③「他者に奉仕する能力の増大を図る」
 - ・水・保健と飢餓、識字率向上の奉仕活動に専念
- ④「質的にも量的にも会員組織を世界に拡大する」
 - ・目標達成のために会員を増やす
- ⑤「ロータリー独特の職業奉仕への取組みを協調する」
 - ・職業倫理の高い水準で他に模範を示す
- ⑥「国際ロータリー内の指導的才能を最大限に活用し、育成する」
 - ・指導的役割を担うため、指導者育成を行う
- ⑦「組織全体を通じて継続性と一貫性を保つため長期計画の手順を実施する」



2009-2010年度のRIテーマとRI第2510地区の基本方針についての説明

次に、2009—2010渡邊ガバナー年度のRI第2510地区の基本方針についての説明がなされた。

「環境・人・子どもに目を向けよう」

と高らかに基本方針を掲げ、それを以下の様に説明した。

「環境は地球人の普遍的テーマ」であり「人は等しく生きる権利がある」と続け、「子どもは未来を持っていてそれを拓く支援をしなければならない」と結んだ。そしてさらに地区としての重点目標を

1. 小児ガンの子どもに夢や希望を与える「そらぶちキッズキャンプ」を支援しよう
2. 水の衛生確保と飢餓追放のため活動する「WCS」を支援するクラブを応援しよう
3. 会員増強のため純増を年度初めの会員数の「1名以上の会員増」を実行しよう
4. 会員は常なる活動の意識の中で「職業倫理を醸成」し職業奉仕に心がけよう

と力説され、ついに次年度へ向けての新たなステップを踏み出したわけである。その後、1日目の締め括りとして、塚原房樹次期地区研修リーダー（PG）から「PETSで学ぶこと」の講話を戴いた。

【懇親会】懇親会はJRを跨ぐ近代的な渡線橋を渡って反対側にある砂川パークホテルで開催された。

砂川クラブ千葉 清地区セミナーサポート委員長の歓迎の挨拶、乾杯のご発声を塚原房樹パストガバナーが行い、名刺交換や旧交を確かめ合う良い機会であった。締めは佐々木正丞ガバナーノミニの閉会挨拶で、恒例のロータリーソング「手に手つないで」を輪となり熱唱し散会した。その夜は滝川と砂川の地域経済に貢献した。



【第2日目】PETS第2日目は、早朝8時30分から矢橋温郎ガバナーによる開会の点鐘で目覚め、ロータリーソング「奉仕の理想」でウォーミングアップをして、ホストクラブ会長代理・曾我悦工副会長からの会長挨拶を戴き真剣モードにシフトアップされて行った。

矢橋温郎ガバナーと渡邊恭久ガバナー・エレクトとも簡単なお挨拶で終わられたが、2日目の本題は分科会形式の討論会である。全73クラブの会長と次期ガバナー補佐12名を6つのグループに分け、6つのテーマで各グループの議長役のガバナー補佐の進行に従って討論会を行って頂き、結論が出なくとも討論内容を報告者である、もうお一人のガバナー補佐が全体会議で報告する方式で行った。この分科会での討論会とそれを発表する全体会議での報告会が終了するとPETSの頂点をようやく超えたと云えよう。

昼食をはさんで「財団セミナー」と「米山セミナー」が行われた。無論、これらのセミナーには各クラブには担当委員長の参加が義務付けられているので、続けて報告する。



分科会での熱心な討論風景

ロータリー財団セミナー・米山セミナー

次期地区代表幹事 **神部 洋史**
(滝川IRC)

会長エレクト研修セミナーの第2日目の午後は、各クラブから財団・米山の各担当委員長も参加されて、最初に「ロータリー財団セミナー」続いて「米山セミナー」が開催された。

開会の挨拶は渡邊恭久ガバナー・エレクトが「ロータリー財団セミナー・米山セミナー」に対し共通のご苦労に対するご挨拶で始まった。まず前段の「ロータリー財団セミナー」から報告する。

「ロータリー財団の現況」を地区ロータリー財団委員長岩城秀晴パストガバナー、「国際親善奨学金について」を菅原秀二次期地区国際親善奨学金委員長が報告した。また岡崎芳明地区GSE委員長と沼舘 菜次期地区GSE委員長により「GSEプログラムについて」の解説があった。また須田義雄次期地区補助金委員長から「補助金について」、高橋宣充地区財団学友委員長から「財団学友会について」説明があり、斎藤博司次期地区財団学友委員長からも「財団学友会について」の追加発言がなされた。



財団委員長岩城秀晴パストガバナー



沼舘 しおり次期GSE委員長

15分の休憩をはさんで行われた「米山セミナー」の概要を報告する。このセミナーは一連のセミナーの最後とは思えない位、早退する参加者が少なく思われた。

司会の開会宣言の後、早速(財)ロータリー米山記念奨学会常務理事でもある伊藤長英パストガバナーから「米山記念奨学会の現況について」の講演があった。引き続き「米山記念奨学会寄付について」大石春雄地区米山記念奨学委員長から説明を受けた。また黒澤勝昭次期地区米山記念奨学委員長より「次期の委員会について」若干の説明がなされた。また村上 淳次期地区米山学友委員長からも「米山学友会について」の説明があり、最後は北海道大学博士課程2年の米山奨学生の李炯直(イーヒョンジク)さんの「米山奨学生のお話」を感銘深くお聴きした。



(財)ロータリー米山記念奨学会常務理事伊藤長英パストガバナー



米山奨学生 李 炯直さん(北大博士課程2年)

渡邊恭久ガバナー・エレクトが謝辞を述べ、矢橋温郎ガバナーから講評を戴いて、千葉 清砂川IRC・地区セミナーサポート委員長が閉会宣言を行い、矢橋温郎ガバナーの点鐘で予定のすべてを終了した。

ガバナー補佐研修セミナー

次期地区代表幹事 神部 洋史
(滝川IRC)

2009—2010年度のガバナー補佐研修セミナーが会長エレクト研修セミナー（PETS）と同日で直前の午前11時から開催された。セミナーの内容については以下の通りである。

11：00開会で矢橋温郎ガバナーからご挨拶を戴いた。続いて渡邊恭久ガバナー・エレクトが次年度地区目標と国際協議会報告を行う予定であったが、アウトラインだけで詳細については地区チーム研修セミナーでの基本講演と重複するため省略された。

次に鈴木英也次期地区財務委員長から次年度ガバナー補佐に次年度地区予算（案）について説明を行った。神部洋史次期地区代表幹事より次年度年間計画と公式訪問日程（案）の報告があり、年間スケジュールの確認と公式訪問日程に対するご意見を伺った。また、この後の地区チーム研修セミナーとPETSの進行について（とくに分科会の議長や報告者の決め方の確認とテーマの選び方）、ならびに懇親会およびロータリー財団セミナーと米山セミナーについて説明した。（11：55閉会）

地区チーム研修セミナー

次期地区代表幹事 神部 洋史
(滝川IRC)

2009—2010年度の地区チーム研修セミナーがガバナー補佐研修セミナーに引き続き開催された。セミナーの内容については以下の通りである。

13：00に開会して矢橋温郎ガバナーからご挨拶を戴き、渡邊恭久ガバナー・エレクトが出席者を紹介し、渡邊恭久ガバナー・エレクトがそのまま基調講演を行い「RIテーマ発表・次年度目標及び地区運営基本方針」について熱っぽく語った。（詳細については会長エレクトセミナー報告を参照）

続いて次期地区研修リーダー講話として次期地区研修リーダーの塚原房樹パストガバナーの講話があり、リーダーとしての資質などについて詳しく解説を受けた。この後一旦休憩し再開後、地区組織図（案）について次期地区代表幹事から地区組織（主に3年継続委員長について）の説明があり、多少のご異論があった。次に鈴木英也次期地区財務委員長から地区予算（案）の説明を行い、会員減による収入減で委員会費削減への理解をお願いし了承された。最後に出席された次期地区委員長から委員会事業についての説明を受け閉会となった。（16：15閉会）

【付記】

PETS前に終了していなければならない「ガバナー補佐セミナー」と「地区チーム研修セミナー」をPETS直前の時間帯に設定させて戴いたため、2日間でガバナー補佐・地区チーム・会長エレクト（合計2日必須）のセミナーとPETS懇親会、財団と米山のセミナーを合わせると大変過密なスケジュールとなってしまった。さらに空知での開催のため函館方面へのアクセス時間帯の配慮や交通費節約などの面からすべての参加者、ことに次期ガバナー補佐各位にご迷惑をお掛けした事を心からお詫び申し上げます。



一粒の麦

国際ロータリー第2510地区

パストガバナー 塚原 房樹

(札幌東RC)

《一麦幼稚園》

19世紀も終りに近い、ロータリー誕生前夜のシカゴは、金融恐慌による貧困飢餓、犯罪と伝染病の温床で世界の中で最悪のスラム街でした。しかし敢然と悪に対抗する人たちが現れました。救世軍や社会福音運動、YMCA、婦人キリスト教禁酒同盟など様々な社会改良運動がおこりました。中でも貧民救済のためのハルハウス(Hull House)は、1889年近代社会福祉の母といわれるジェーン・アダムスが、シカゴに設立した施設で、アメリカにおける最初のセツルメントハウス(隣保館)として有名です。セツルメント運動とは、知識人や学生、宗教家たちが、スラム街などの貧しい地域へ移住し、生活に困っている人々に教育を施し自立するための手助けをする運動です。日本でセツルメント運動を始めたのは、世界的なキリスト教の伝道者であり、社会運動家として著名な賀川豊彦氏でした。「賀川豊彦」という名前はたいの年配の人はご存知だと思いますが、どんな人なのかよく知らない方も多いのではないのでしょうか。

自伝的小説、「一粒の麦」「死線を越えて」があり「日本のガンジー」と呼ばれノーベル平和賞の候補にも挙げられたまさに「世界の力ガワ」でした。関東大震災の被災者支援に奔走した賀川豊彦氏が神戸のスラム街に身を投じて日本におけるセツルメント運動を興しました。家のない人のために無料の宿泊所や安く食事ができる食堂を作り病人の介護、仕事のあっせん、幼稚園の設立など、その活動は生活の様々な分野におよびました。当時の日本人としては進歩的自由主義者、キリスト教自由主義者であり社会運動に一生をささげました。その彼が西宮市に「一麦幼稚園」を開園しました。私はご縁があってその幼稚園で2年間お世話になりました。1940年頃の日本は戦雲漂う暗い世相でしたが一麦幼稚園には、今思うとキリスト教自由主義の博愛とリベラルな雰囲気がありました。

幼稚園の名前の「一麦」は、もちろんヨハネの福音書の「一粒の麦」に由来しています。福音書には次の言葉が記されています。

A grain of wheat

“Truly, truly I tell you,

unless a grain of wheat falls into the ground and dies,
it remains alone. But if it dies, it produces a lot of grain.”

一粒の麦

よく言っておきます。

畑にまかれる一粒の麦のように、私も地に落ちて死ななければなりません。

そうしなければ、いつまでたっても、一人のまま、一粒の種のままです。

だが、死ねば、多くの新しい実が生じ、新しいいのちが豊かに実を結ぶこととなります。

《キリスト教の死生観》

日本人にとって「死」の後にあるのは極楽往生か、地獄へ落ちることですが、キリスト教信者にとって「死」の後にあるもの、それは「復活」です。「復活」をして、永遠の命を得ることがキリスト教の目標なのです。どうしたら「復活」ができるのか？それはイエスを信じることです。イエスを信じるとは、内なる価値観が大きく変わることを意味しますから、生まれ変わることと同じ意味です。イエスを信じ復活をすることによって、神の子として生まれ変われます。（神の子とされること、つまり、からだのあがなわれることを、待ち望んでいます。彼らは、このような希望によって救われているのです）

一方ギリシャの歴史家ヘロドトスは、古代トラキア人（現在のブルガリアを中心とした地域に栄えた黄金文明）は「誕生より死を喜ぶ」と書き残しています。「誕生はこれから経験するであろう幾多の困難を思い嘆き悲しむ。死とはこの世の労苦を果たし終えた至福の時、来世における永遠の幸福を信じているため、葬儀は陽気な賑わいに満ちた祝祭の場であった。我々は誕生を悲しみ、死を喜ぶ」トラキア人の死生観は日本の神道を思わせます。

《あと一日の死生観を持って（亀井勝一郎氏）》

我々は自分の死ぬ日を知らない、明日という日はまだまだ続くと思っています。

しかし確実に死に向かっています。人間として生まれた以上、年齢に関係なく常に死によって脅かされているのが人生だからです。ふだんそれを徹底的に考えないのは、自分だけは大丈夫だろう、まだ当分大丈夫だろうと、いわば自己の生について空想しているからです。自分のいのちを後一日と仮定してみることです。仮定だからまだどこかにのんきな点があると思いますが、とにかく、あと一日しか生きられないと考えて、その時自分はどんな反応をするのでしょうか。自分の生涯は空しかった反省し苦しむのも一日、楽しむのも一日、それなら思い切り楽しむ方を選ぶ人もいるでしょう。また、たとえあと一日でもいいから多少でも人としての心の豊かさを保ちながら自分を偽らない気持ちで生きてみたいと思う人もあるでしょう。「生」とはあと一日と、「死」を目の前に置いた時の自分のギリギリの「願い」だと言っていていいでしょう。人間すべて何らかの「願い」をもっていて、それが人間を生かしています。死を考えることで、心からの願いを改めて自覚することができます。私はロータリーに触れて、私淑する亀井勝一郎氏の「人生 邂逅し 開眼し 瞑目す」という言葉の意味が最近になって解るようになりました。

《ロータリーが書いた社会改良の処方箋》

冒頭に触れましたが、19世紀の末葉から20世紀の初頭にかけてのシカゴでは、さまざまな社会改良運動が occurred。このような時ロータリーは20世紀初頭の病める都市、シカゴを救うために一体どのような処方箋を書いたのでしょうか。そしてどのような運動を展開したのでしょうか。20世紀初頭の混沌としたシカゴで、ロータリーが目指した社会改良の処方箋とは、社会の基である個人の心を教化することでした。ロータリーは人間の徳性の向上が人類社会発展の基本であると信じて疑わないのです。ロータリー運動は地域社会の最も徳性を重んじる職業人の日常の出会いの中から、各自の徳性の改善がなされ、それが各自の識見の広さと判断力の強化につながり、社会を改良しようとする運動です。つまりロータリーは職業人の成人学校なのです。学校は出席しなければ意味がありません。ロータリーも例会出席からすべてが始まります。そこで異業種の良き人々と邂逅し、開眼するのです。自己の人格を改善することが社会改良の処方箋でありロータリー運動の根本目的なのです。ロータリーの魅力はまさに「人作り」運動に尽きます。



第9グループの概略 あらまし

地区ガバナー補佐（第9グループ担当）
若木 日出男
(登別RC)

第9グループは洞爺湖から登別まで、伊達、室蘭を挟んで西胆振地方に位置する。農業、水産業、工業が盛んで支笏洞爺国立公園に指定された観光の要素として、港湾、山、海、湖、温泉に恵まれた地域である。

室蘭RC（創立昭和11年）が伊達RC（創立昭和34年）、室蘭東RC（創立昭和36年）を生み、伊達RCが洞爺湖RC（創立昭和44年）を生み、室蘭東RCが登別RC（創立昭和44年）、室蘭北RC（創立昭和46年）を誕生させるという系譜を持つ。“鉄は国家なり”という大号令のもと大規模な製鉄工業地帯を形成した室蘭は、“出船、入船、それ船船…街（まち）はね、街は繁盛でよいとさのさ…今日も黄金（こがね）の波が打つ…”と室蘭音頭に歌われているように、昭和期は伊達登別を副えに一大経済圏を成していたが、近年は世界の趨勢に抗しがたく製鉄、造船、製油、セメント業に少しずつかげりが見え、西胆振の領袖的な存在であった室蘭地方は元氣、活力がない。

室蘭、室蘭東、室蘭北RCの三クラブは会員200名を超えた時期もあったが、中小企業、町場の商業の活力が失われ、会員120名前後と低迷している。伊達RCは70名以上の会員を有した時もあったが、現在54名といまいち振るわない。食糧の危機と叫ばれている昨今、農業の振興で今一度繁栄をむかえるか。山紫水明の湖と温泉を抱える洞爺湖RCは二度の噴火（有珠山）に遭いながら頑張って9名の会員で命脈を保っている。昨年7月のサミットの開催で、世界にその名と存在を知らしめたあおりを受けて観光客の誘致に期待が持たれる。

抜群な知名度と潤沢な湯量の温泉地を有しながら、規模の大きな産業を持たない登別RCもいまいち冴えない。会員30名を軸に入退会を繰り返している。東アジア諸国（主に台湾、香港、韓国）を中心に徐々にではあるが海外客が増えているが一縷の望みである。

西胆振地方を一体化して、山、海に恵まれた雪も少ない温暖な地の利を生かして、農業、水産、工業技術、観光を最大の目玉として大胆な創意を加えるなら、期待の持たれる地域に変貌する可能性が充分にあります。

しかし、今始まった世界同時不況がちょっと邪魔をしますが、それが沈静した時、第9グループの6クラブは往年の力を取り戻して会員の増加、奉仕活動の活性、更にはロータリークラブの発展につながるのではないかと夢想します。

知里幸恵興味深く 6RC 120人、ビデオ見入る

都市連合会
プログラム

国際ロータリー第2510地区第九グループの第三十七回都市連合会プログラム（インナーシティイミテイング）がこのほど、登別市中央町のホテル平安で開かれた。

登別、室蘭、室蘭東、室蘭北、伊達、洞爺湖の六RCが持ち回りで開催しており、今回は登別RCが担当。テーマを「のぼりべつから文化の発信 知里幸恵の物語」自然と共生・共存する魂を求めて

「皆さんの特段の協力に感謝し、有意義に終わることを祈ります」と歓迎の言葉を述べ、来賓の小笠原春一市長があいさつ。プログラ

ムには「アイヌ神謡集」を著した登別出身のアイヌ女性・知里幸恵の生い立ちなどをまとめたビデオを鑑賞。「幸恵に焼き付いているのは登別の海や山、川」などの内容に興味深く見入っていた。

（有田太一郎）

登別出身のアイヌ女性・知里幸恵に理解を深めた都市連合会プログラム

2009年（平成21年）2月24日（火曜日） 室蘭民報掲載

第21回 全国ローターアクト研修会の報告

地区ローターアクト代表ノミネー 安藤 由香里
(札幌南RAC)

全国34地区のローターアクターが年に一度集まる、全国ローターアクト研修会が平成21年2月21日～22日の二日間にわたり、長崎県長崎市（RI第2740地区佐賀・長崎）で行われました。日本国内のロータリアン・ローターアクターが集い、よりよい関係を築き、ローターアクトの発展に努めるという趣旨の元に開催しています。

研修会には金子長崎県知事（欠席のため副知事出席）はじめ田上長崎市長の来賓に加え韓国第3600地区と第3640地区の3名のローターアクターと鈴木第2740地区ガバナーをはじめとする115名のロータリアン、約480名のローターアクトの登録で盛大に行われました。

第2510地区からは、柳地区RA委員長や蝦名地区RA委員をはじめとするロータリアン2名、ローターアクター17名という大人数での登録でしたが、大雪のため飛行機が欠航という惨事にみまわれ、残念ながら参加できないメンバーも数名いました。

今回の大会テーマは、「E」 Evolution（進化）・Ecology（環境問題）・Emotion（感動）・Enjoy（楽しみ）・Eternal（永遠）という5つのEが今回のテーマでした。一般参加者プログラムではEcology（環境問題）に関して、各企業や団体がどのように環境問題に取り組んでいるのかを聴いたり、地球環境についての基調講演を聴いたりと参加したアクターは、自分でできる小さなことはもちろんですが、今後ローターアクト活動をしていく中で環境問題について考え、つなげていければと思います。

一般プログラムと並行に行われていたのが義務出席者会議です。ロータリー部門と地区RA代表・地区RA幹事部門・地区RA代表ノミネー・次期RA地区幹事部門の3つに分かれそれぞれの議題にそって会議をしました。

今、私は地区RA代表ノミネーという立場でこの会議に出席しましたが、各地区の同じ立場の人の意見や各地区の現状、これから自分が地区をどのようにしていきたいかなどいろんな話を聴くことができ、このような会議に初めて出席した私にとっては、とても刺激的でした。自分が次年度どのように地区にかかわっていくか、どうしていきたいのかを考えるととてもいいきっかけになりました。

懇親会では、長崎の伝統芸能の竜踊をみせて戴いたり、長崎県の料理が多数並んでいたりと、少しの時間でしたが長崎を堪能することができました。

次年度に向けて、やりたいことはたくさんあります。各クラブ毎にきちんと例会やその他の活動をするのは基本ですが、地区としてもみんなで協力して、団結して、もっともっと盛り上げていきたいです。みんなが楽しく、充実したローターアクト活動が行えるように少しでも力になればと思います。ロータリアンの皆様、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



札幌東ロータリークラブ 創立50周年記念継続事業

特別講演会

『ヒブワクチン接種促進運動』

～子どもたちのいのちと未来を守るヒブワクチン!～

クラブ会報委員長 **上田 進**
(札幌東RC)

2009年2月8日、創立50周年の継続事業として当クラブ主催による『ヒブワクチン接種促進運動』～子どもたちのいのちと未来を守るヒブワクチン!～（協賛：札幌市小児科医会）の特別講演会が札幌市医師会館で開催され、休日にも関わらず210名を超える参加者が会場を埋めました。冒頭、星野恭亮会長より、世界で最も貧弱な日本のヒブワクチン接種の重要性を知らせるために、当クラブが率先して取組んでいくとの決意が語られました。



基調講演では、富樫武弘先生（北海道小児科医会会長）より「ヒブ」についての講演を頂き、「全国100万人全ての0歳児に対し、早急に定期予防接種化を行うべきである」という意見で講演を締めくくって頂きました。

引き続き、山中樹会員の進行でパネルディスカッションが行われました。行政によるヒブワクチン接種公的補助の先鞭をつけた鹿児島市で、その実現に尽力された西順一郎先生（鹿児島大学医学部小児科）、多くの細菌性髄膜炎の子どもたちを救ってきた大島美保先生（札幌徳州会病院）、患者ご家族を代表して安達佳織様、そして土谷享RI第2510地区ガバナー補佐の4氏が熱心にお話をして下さいました。また、土谷ガバナー補佐から、RCの奉仕活動の紹介があり、特に全世界でのポリオプラス運動が大きな成果を上げつつあることが報告され、その上で当クラブの『ヒブワクチン接種促進運動』を高く評価し、この運動が他のRCに広がって行くことへの期待を表明して頂きました。

最後に、コーディネーターの山中会員より、休日にも関わらず多くの方々のご参加を戴いたことに感謝するとともに、今後とも当クラブと一緒に『ヒブワクチン接種促進運動』を進めて頂きたいと呼び掛け、二時間半に及ぶ講演会は終了致しました。



ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

留 萌 R C	関野 政人	会員 (2回)	2月27日
栗 山 R C	小寺 進	会員 (1回)	2月27日
札幌はまなすRC	戸部アナマリア	会員 (2回)	2月 6 日
札幌西 R C	石丸修太郎	会員 (1回)	2月27日
札幌東 R C	朝倉 正人	会員 (2回)	2月27日
札幌清田RC	西澤 寛俊	会員 (1回)	2月27日
	阿部 哲夫	会員 (2回)	2月27日
札幌幌南RC	近藤 浩	会員 (1回)	2月27日
札幌南 R C	川井 一男	会員 (2回)	2月27日
	夏井坂信幸	会員 (1回)	2月27日
新札幌 R C	梅田 鉄夫	会員 (1回)	2月27日
小樽南 R C	斎田 義孝	会員 (2回)	2月13日
恵 庭 R C	弘中 正利	会員 (2回)	2月 6 日
	大川 健一	会員 (2回)	2月 6 日
	山澤 興治	会員 (1回)	2月 6 日
	藤井 哲夫	会員 (2回)	2月20日

■ポール・ハリス・フェロー

岩見沢 R C	北澤 治雄	会員	2月27日
札幌はまなすRC	松尾 浩之	会員※	1月16日
	柳井 康晴	会員※	1月16日
	光川 眞量	会員	2月 6 日
札幌清田RC	小島 健	会員	2月27日
	三澤 龍子	会員	2月27日
札幌幌南RC	下出 道弘	会員	2月27日
札幌南 R C	櫛引 拓禎	会員	2月27日
倶知安 R C	斎藤 知之	会員	2月27日
	石本 要	会員	2月27日
	鈴木 保昭	会員	2月27日
恵 庭 R C	斉藤 茂生	会員	2月 6 日
	宮内 光則	会員	2月 6 日
由 仁 R C	蜂谷 光雄	会員	2月27日
室蘭北 R C	中田 孔幸	会員	2月27日
登 別 R C	千葉 泰二	会員	2月27日
	仲川 弘誓	会員	2月27日
函館五稜郭RC	鈴木 良二	会員	2月20日
北 斗 R C	佐藤 竜也	会員	2月27日

※ (寄付者訂正)

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

■米山功労者

札幌南 R C	小林 昌志	会員 (9回)	2月17日
---------	-------	---------	-------

■米山功労クラブ

新札幌 R C	14回	2月24日
---------	-----	-------



[ロータリー文庫]は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリー情報として

- ◎ [他人の金で奉仕をするという虚構]
佐藤千壽PG遺稿 2009 8p (D.2790 月信)
- ◎ [ロータリーを見直そう]
千 玄室 2008 8p (D.2650 地区大会)
- ◎ [識字力あれど識智力のない日本]
佐藤千壽・深川純一 2008 18p (D.2680 地区大会)
- ◎ [決議23-34その存続の危機]
田中 毅 2008 12p (D.2710 IM報告書)
- ◎ [ロータリー理解推進月間にあたって]
戸田 孝 2009 1p (D.2660 月信)
- ◎ [ロータリー理解推進月間(ロータリーの広報を考える)]
塚原房樹 2009 2p (D.2510 月信)
- ◎ [ロータリー理解推進月間]
足立功一 2009 12p (D.2500 月信)
- ◎ [ロータリー理解推進月間によせて]
三軒久義 2009 1p (D.2640 月信)

[上記申込先：ロータリー文庫(コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

4月のロータリーレート 1ドル=98円

新 入 会 員 の ご 紹 介 (敬称略)



蛭原 弘
(滝川RC)

■入会/
09年1月8日
■職業分類/
学校法人



渡辺 浩司
(滝川RC)

■入会/
09年1月8日
■職業分類/
冷暖房設備工事業



藤岡 里美
(滝川RC)

■入会/
09年3月5日
■職業分類/
建設業



小林 信幸
(伊達RC)

■入会/
09年1月13日
■職業分類/
砂糖製造



荒谷 信幸
(室蘭北RC)

■入会/
09年2月24日
■職業分類/
損害保険業



田中 政数
(白老RC)

■入会/
09年3月1日
■職業分類/
建設業

訃 報



佐原正三 会員(函館RC)
2009年2月22日逝去(享年74歳)

【ロータリー歴】
1998年7月30日 再入会
2000~01年度 国際奉仕委員長
2002~03年度 プログラム委員長
その他委員長を
務めました



平野 了 会員(岩内RC)
2009年2月28日逝去(享年81歳)

【ロータリー歴】
1962年4月 入会
(チャーターメンバー)
1964~65年度 副会長
1965~66年度 会長
1974~75年度 分区代理
その他各委員長歴任
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
米山功労者マルチプル

2009-2010年度 地区協議会開催のご案内

日 時 2009年4月12日(日) 登録開始: 午前9時 本会議開会: 午前10時
場 所 滝川ホテル三浦華園 滝川市花月町1丁目2-26 電話0125-22-2101



国際ロータリー第2510地区 渡邊恭久 ガバナー・エレクト事務所
〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル内
電話(011)207-2510 FAX(011)207-2512
E-mail: rid2510@rotary.gr.jp

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.2.28	増減	内女性	
1	深 川	4	36	35	-1	3	81.31
	羽 幌	4	48	48	0	1	86.41
	妹 背 牛	3	9	9	0	0	77.78
	小 平	4	14	13	-1	0	76.92
	留 萌	3	45	43	-2	0	88.33
	小 計		152	148	-4	4	82.15
2	赤 平	4	29	28	-1	1	89.00
	芦 別	4	44	37	-7	0	88.29
	砂 川	3	52	55	3	0	96.88
	滝 川	4	99	100	1	2	77.15
	小 計		224	220	-4	3	87.83
3	美 唄	4	38	37	-1	0	81.40
	江 別	4	34	34	0	1	91.91
	江 別 西	3	27	30	3	3	84.44
	岩 見 沢	4	87	89	2	0	89.94
	岩 見 沢 東	4	34	34	0	4	88.28
	栗 沢	3	23	24	1	1	95.60
	栗 山	4	26	27	1	2	97.00
	当 別	4	34	33	-1	0	93.18
	小 計		303	308	5	11	90.22
4	札 幌	3	117	122	5	0	98.48
	札幌あけぼの	4	18	16	-2	1	100.00
	札幌はまなす	4	25	22	-3	4	79.55
	札 幌 北	4	43	43	0	6	95.05
	札幌モーニング	2	49	51	2	0	80.00
	札 幌 西	4	62	62	0	4	94.33
	札 幌 西 北	4	39	38	-1	5	94.08
	札 幌 手 稻	4	34	34	0	1	98.53
	小 計		387	388	1	21	92.50
5	札 幌 東	4	120	123	3	0	96.29
	札 幌 清 田	4	18	18	0	4	100.00
	札 幌 幌 南	3	65	64	-1	0	100.00
	札 幌 真 駒 内	3	35	35	0	3	92.16
	札 幌 南	4	92	89	-3	0	98.04
	札幌大通公園	4	9	9	0	2	86.10
	札幌セントラル	4	14	13	-1	6	67.30
	新 札 幌	3	32	30	-2	3	93.54
小 計		385	381	-4	18	91.68	
6	岩 内	4	21	22	1	0	83.75
	俱 知 安	3	46	45	-1	4	67.40
	小 樽	4	69	68	-1	0	86.15
	小 樽 南	4	73	73	0	0	93.88
	小 樽 銭 函	4	21	22	1	2	75.00
	蘭 越	3	11	11	0	0	81.81
	余 市	3	39	40	1	4	90.00
	小 計		280	281	1	10	82.57

2月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,816人
当月末会員数(女性)	2,829人(102人)
増加会員数	13人
当月平均出席率	85.65%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.2.28	増減	内女性	
7	千 歳	4	63	64	1	3	76.20
	千歳セントラル	4	35	37	2	2	87.30
	恵 庭	3	39	38	-1	0	74.54
	北 広 島	3	17	17	0	0	86.27
	長 沼	4	20	20	0	3	80.00
	由 仁	4	10	11	1	1	72.50
	小 計		184	187	3	9	79.47
8	え り も	4	22	23	1	0	93.47
	三 石	4	15	15	0	1	93.33
	様 似	4	23	24	1	1	94.30
	静 内	3	72	73	1	1	81.41
	浦 河	4	34	34	0	2	83.09
	小 計		166	169	3	5	89.12
	9	伊 達	4	53	55	2	0
室 蘭		4	43	44	1	0	89.56
室 蘭 東		3	41	37	-4	0	82.83
室 蘭 北		3	34	37	3	2	100.00
登 別		3	31	31	0	2	83.87
洞 爺 湖		5	9	9	0	0	100.00
小 計			211	213	2	4	88.77
10	函 館	4	87	86	-1	0	69.77
	函 館 亀 田	4	45	44	-1	2	97.03
	森	3	34	35	1	0	71.40
	七 飯	4	16	17	1	0	66.10
	長 万 部	3	10	10	0	0	73.33
	函館セントラル	4	24	25	1	1	71.88
	小 計		216	217	1	3	74.92
11	江 差	4	19	20	1	2	70.00
	函 館 五 稜 郭	4	55	55	0	0	99.53
	函 館 東	3	45	46	1	4	86.12
	函 館 北	3	30	31	1	0	88.85
	北 斗	4	19	17	-2	2	64.70
	松 前	3	5	5	0	0	60.00
	小 計		173	174	1	8	78.20
12	白 老	4	26	28	2	0	78.50
	苫 小 牧	4	50	54	4	2	87.88
	苫 小 牧 東	4	25	26	1	2	83.65
	苫 小 牧 北	4	34	35	1	2	93.14
	小 計		135	143	8	6	85.79
合 計		2,816	2,829	13	102	85.65	

地区カレンダー（4月・5月）

4月 ロータリー雑誌月間	
1 (水)	
2 (木)	
3 (金)	
4 (土)	第10・11グループ合同IM (函館)
5 (日)	
6 (月)	
7 (火)	
8 (水)	
9 (木)	
10 (金)	
11 (土)	
12 (日)	地区協議会 (滝川) 洞爺湖RC創立40周年記念式典
13 (月)	
14 (火)	
15 (水)	
16 (木)	
17 (金)	
18 (土)	米山奨学生カウンセラー研修会他 (札幌)
19 (日)	
20 (月)	
21 (火)	
22 (水)	
23 (木)	
24 (金)	韓国第3700地区大会 (大邱)
25 (土)	韓国第3700地区大会 (大邱)
26 (日)	
27 (月)	
28 (火)	
29 (水)	昭和の日
30 (木)	

5月	
1 (金)	
2 (土)	
3 (日)	憲法記念日
4 (月)	みどりの日
5 (火)	こどもの日
6 (水)	振替休日
7 (木)	
8 (金)	
9 (土)	
10 (日)	
11 (月)	
12 (火)	
13 (水)	
14 (木)	
15 (金)	
16 (土)	長沼町国際交流フェスティバル (長沼)
17 (日)	深川RC創立50周年記念式典及び 第1グループIM (深川)
18 (月)	
19 (火)	
20 (水)	
21 (木)	
22 (金)	
23 (土)	
24 (日)	
25 (月)	
26 (火)	
27 (水)	
28 (木)	
29 (金)	
30 (土)	羽幌RC創立30周年記念式典
31 (日)	

《例会曜日・例会時間・例会場の変更等について》

- 函館亀田RC：例会場の変更について
ホテルオークランドが平成21年3月31日をもって閉鎖となりましたので、4月6日の例会より下記に例会場を変更致します。宜しくお願い申し上げます。
例会場：ロワジールホテル函館 函館市若松町14番10号
電話0138-22-0111
- 江別RC：4月2日(木)移動例会 12:30～
場所：勤労者研修センター(江別市緑町西1丁目103)
4月16日(木)移動夜間例会 18:30～
場所：マキシドルパ(江別市高砂町6 江別市民会館内)
4月30日(木)休会
- 室蘭北RC：4月21日(火)夜間例会 18:30～ 場所：ホテルサンルート室蘭
- 岩見沢RC：4月2日(木)夜間例会 18:00～ 場所：ホテル・サンプラザ
4月30日(木)休会

《地区組織図の変更について》

地区クラブ奉仕委員会委員の山名善久会員(札幌南RC)が2月4日付でクラブを退会されましたので、組織図から削除をお願い致します。

編集後記

IM余話。昨2月21日(土)、第4、第5グループ(札幌地区)と第9グループ(室蘭地区)、きせずして同じ日にIMを開催した。第9グループはさておき、札幌地区のIMは、かの高名なノーベル賞受賞者、小柴昌俊先生をお招きしてご講演を戴いた。折悪しく前夜来のダブル低気圧に見舞われ、羽田発千歳行は全便欠航となったが奇跡的に千歳に降り立った1便に偶々、小柴先生が乗り合わせた次第で、開催者の大島ガバナー補佐、土谷ガバナー補佐をはじめ札幌西北RCの面々全員、安堵の面持ちであった。当日、そうありなんと欠席の場合の代行講演者を在札の方をお願いをしたそうだが、全員とてもノーベル賞授賞者の代理にはとてもとの尻込みで、困った主催者は拝み倒すように丸山淳士PGIにお引受けを戴いた。男気を出したまでは良いが、丸山PGIは緊張のあまり数日準備に追われたとの話。折角だから別の機会にご講演を願いたいものである。

小柴先生の到着が遅れたためアトラクションを先に演じた。ステージ所狭しと50数名の札幌市立北陽中学校の生徒達による合唱だ。その清新な歌声に一同心を洗われるような感じに打たれ、中には涙ぐむ会員まで現れた。出演のいきさつはこうだ。昨年末、札幌あけぼのRCの会長、幹事が思いつめた様子でご相談がありますと、ガバナー事務所に大島ガバナー補佐とお見えになった。テリトリー内の中学校長より合唱祭の援助をお願いされたとの事。その学校には札幌あけぼのRC面々のお子さんやお孫さん達が通ってい

て、PTA会長もメンバーである。毎年、合唱祭の会場が札幌市民会館で開催されていたが、本年新設会館のため使用料が大幅に値上がりし開催者の資金ではどうにもならぬとの事。聞けば各種アカデミックなコンテストと違い、オフに出場に恵まれぬ小規模な中学校を中心に開催されている指導教師達の研究会によるレベルアップの合唱祭で、行政・各機関の援助は全くないとの事。ジンときたガバナーは助力を約束し、第4、第5グループのガバナー補佐に協力を依頼した。結果、各RCより資金提供され(1クラブ数万円程度)無事合唱祭が行われ、そのお礼にとの出演だったわけである。

年度末の各種研修会合が目白押しで開催される。皮切りは砂川RCホストの会長エレクト研修セミナーである。地区内の全ての次期会長の出席を得ての勉強会であった。遠隔地での開催のため、並行してガバナー補佐会議、地区チーム研修セミナー、R財団・米山セミナー等盛沢山の内容であった。ホストクラブの采配は実に見事で会合の成果を上げるのに十分な働きであった。一際目についたのはコーヒーパーに砂川自慢の名物スイーツの数々の出品で出席者の気持ちを和やかに包んだ模様だ。追っかけ地区協議会も4月12日に行われる。新年度に向け各RCの新役員の方々にはご苦勞をお掛けするわけだが、新ガバナーの意を汲んで十分な準備で新年度にのぞまれるよう、切にお願いをする次第です。(大金)

ガバナー事務所

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512
E-mail:rid2510@nifty.com 執務時間:10:00~17:00(土・日・祝祭日休み)



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008～2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



表紙：札幌 平岡公園の梅林
撮影：田宮哲夫 札幌西RC